

## 県立龍野高等学校「創立記念日」に寄せて

県立龍野高等学校  
校長 駒田 勝

皆さんは、『伝承』と『伝統』の違いを説明できますか。

京都にある老舗料亭菊乃井の当主 村田吉弘氏はインタビューで『伝承』とは同じことを続けていくこと。『伝統』とは革新の連続を繋げていって、後ろを振り返ると伝統になっていったということですかね。伝統を繋げていくには、お客様に喜んでもらえることを革新的につなげていかねばなりません」と語っています。

このことを教育の分野では「不易と流行」という言葉で表現することも多いようです。「不易」とは、いつの時代においても必要とされる教育を続けること（＝伝承）。「流行」とは、時代の変化に合わせ、それぞれの時に応じた魅力・特色ある教育の提供を続けていくこと（＝伝統）というところでしょうか。このことを俳人 松尾芭蕉は、「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」と、うまく表現しています。

さて、本校は6月1日を創立記念日と定め、今年で創立127年目を迎えました。

明治30年、地元の要請と厚いご支援により、県下で4番目の中学校となる兵庫県龍野尋常中学校が開校されました。「質実剛健」を校是とし、校名は明治32年に兵庫県龍野中学校、同34年に兵庫県立龍野中学校と改称され、戦後の学制改革によって、昭和23年、兵庫県立龍野南高等学校となりました。

一方、明治39年には、龍野町立技芸専修女学校が、女子教育の先駆けとして「勤勉力行、去華就実」を校是として開校されました。その後、同42年に揖保郡立技芸女学校、同45年に揖保郡立実科高等女学校、大正7年に揖保郡立高等女学校、同11年に兵庫県立龍野高等女学校となり、さらに戦後の学制改革で兵庫県立龍野北高等学校となりました。そして、昭和23年9月1日、この南北両高等学校が統合され、兵庫県立龍野高等学校となりました。

一校に統合後も、両高校の職員、生徒を一か所に収容する施設がなかったため、南高校を本校に、北高校を分校にして分散授業を続けていましたが、昭和25年6月1日に、北分校を廃止して現在の場所で全学年の授業を始めたことから、この日を創立記念日としています。

このような明治から大正、昭和、平成、令和へと連綿と続く歴史の中で、本校の校章が「龍」の文字を二分して中央に「高」の文字を戴く文様となっているように、龍中と龍女の不易の精神は時代を超えて今なお引き継がれています。校訓を「向上、友愛、団結」とし、「文武両道」を校是として、本校はこれまでに4万有余名の有為な人材を輩出してきました。そして現在においても、校訓に基づき、確かな学力と豊かな感性・人間性の涵養に努め、他者への思いやりと優しさを持つ「知・徳・体」の調和のとれた人材の育成を目指しています。

県立龍野高等学校には、127年の時を紡いできた歴史と伝統に裏打ちされた龍野高校ならではの『よき校風』があること。また、皆さん一人ひとりが、この『よき校風』を受け継ぐ「龍高生」であることを今一度自覚し、自らの在り方、生き方を考える一日にしてもらいたいものです。